

会

報

社団法人 日本病理学会  
 〒113-0033  
 東京都文京区本郷 2-40-9  
 ニュー赤門ビル 4F  
 TEL: 03-5684-6886  
 FAX: 03-5684-6936  
 E-mail jsp-admin@umin.ac.jp  
 http://jsp.umin.ac.jp/

社団法人日本病理学会

第 261 号

平成 21 年 (2009 年) 10 月刊

## 1. 次期理事長選出の選挙について

平成 21 年 10 月 9 日  
 社団法人日本病理学会  
 選挙管理委員長 加藤 洋

平成 22/23 年度次期役員 (理事・監事) 選挙の結果を踏まえ、次期理事長を選挙により選出いたします。下記の要領により投票をお願いいたします。

## 記

- 投票締切日: 平成 21 年 10 月 28 日 (水) 当日消印有効
- 投票用紙には、被選挙人名簿の中から 1 名を記載ください。所信表明 (希望者のみ) をご参照ください。なお、被選挙人の資格には、この所信表明の有無は問いません。
- 記載された投票用紙は、内封筒に入れてください。内封筒にはのり付けをしないよう、お願いいたします。
- 外封筒には、投票者の所属、氏名および会員番号を明記してください。この記名がない場合は、無効となりますのでご注意ください。
- 封筒には投票用紙以外は同封しないでください。
- 切手は貼らずにお出してください。

## (1) 被選挙人名簿 (記載は ABC 順)

青 笹 克 之  
 深 山 正 久  
 橋 本 洋  
 覚 道 健 一  
 加 藤 良 平  
 黒 田 誠  
 松 原 修  
 本 山 悌 一  
 向 井 清  
 根 本 則 道  
 岡 田 保 典  
 笹 野 公 伸  
 佐 藤 昇 志  
 白 石 泰 三  
 寺 田 信 行

上 田 真喜子  
 山 口 朗  
 安 井 弥  
 吉 野 正

## (2) 次期理事長候補者所信表明 (希望者のみ掲載: 3 名 ABC 順)

青笹克之 (大阪大学医学系研究科病態病理学)

私は多くの病理学会員のご推薦とご支持により 1995 年以來、病理学会理事として活動して参りました。この間、教育委員会、学術委員会、病理専門医および口腔病理専門医制度運営委員会等の委員長、委員を務めさせて頂きました。これまでに培った知識、経験そして人的交流を基盤として微力ながら日本病理学会の充実、発展に精一杯取り組んで参る所存です。目標は病理学教育、研究、病理診断体制の調和のとれた発展です。病理業務に関しては一人病理医の問題にも焦点を当てたいと考えます。

近年、地方大学の病理学会活動への積極的かつ主導的な参加がいささか減弱しているように思われますが、このことは病理学会の活性化にとって望ましいことではありません。地方の活力なくして病理学会の力強い発展はないものと確信し、此の度の理事長選への立候補を決意しました。

この度の立候補にご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

深山正久 (東京大学人体病理学・病理診断学分野)

病理学会は 2011 年に創立 100 周年を迎えます。この節目にあたり、病理学会発展の新たな礎を築くため先頭に立って努力したいと思います。皆様の御理解と御支援をお願い申し上げます。

1. 病理診断、解剖の意義、重要性を訴え、「医療における病理学」、病理診断科を支える若手病理医のリクルート、育成制度の整備を行います。
2. 病理診断サマーフェストなどの臨床・病理の対話を促進する企画、生涯教育委員会の設置などにより、生涯教育の充実をはかります。
3. 基礎生命科学と臨床医学の架け橋としての病理学を強化するため、研究者と病理医の交流の場を積極的に設けます。

4. 次世代 IT 技術を取り入れた情報基盤を整備し、教育環境の整備、病理診断精度向上、国際交流の促進など、新たな病理ネットワーク作りを進めます。
5. 以上の課題を遂行するために、効率的な委員会運営、支部活動との緊密な連携を目指します。

#### 根本則道（日本大学医学部病理学）

病理学会理事長の立候補に際し、4期8年、関東地区支部長と医療業務担当としての実務経験から簡潔に所信を述べます。現在、病理学会に求められているのは何か？一つは患者（社会）サイドからで、端的には正確な診断とその医療情報の共有、一方、病理医サイドからは①迅速・正確な診断の確保とその保証、②職業（専門医）選択が可能な経済的・社会的に安定した医療環境です。これらへの迅速かつ正しい対応は病理学会だけでなく、わが国の医療の将来像をも左右する極めて重要な喫緊の課題です。百周年記念事業の一環で病事情報管理ネットワークセンター（仮称）設置が決定し、私はその運用への具体的作業に着手しました。本センターは患者（社会）—病理学会—会員を結ぶ有用なツールになると確信します。医療環境整備には行政への一層の働きかけを行います。今後の100年を見据えた病理学会を会員の皆様と共に真摯に目指します。ご支援をお願い申し上げます。

#### 2. 人材育成委員会実施のアンケート結果と提言について

2008年8月に実施いたしました人材育成委員会のアンケート結果と、それに基づく委員会からの提言をお知らせいたします。なお、アンケート結果の概略は病理学会ホームページに掲載されておりますので、ご参照ください。

##### アンケート結果のまとめとコメント

- アンケートは4,070通送付され、780通の回答を得た（回収率19.2%）。
- 一人病理医は全体の24%（男性：女性 82%：18%）で、男性病理医の27%、女性病理医の16%が一人病理医である。東北地方に最も多く（33.3%）、関東地方に最も少ない（16.6%）。
- 日本病理学会の会員は年齢が若いほど女性の割合が高く、30代の約1/3、20代の約1/2が女性会員である。女性病理医の職場環境が日本の病理学に与える影響が大きいたことが示唆される。病理業務に対する負担感について男女差はみられないが、病理学研究に関わる時間は女性の方が短いことがわかる。
- 病理医/病理研究者の育成方法について診断と研究の教室を分けるとした意見が45%を占めていた。診断と研究を並行して学ぶ、複数の部署に所属して学ぶがそれぞれ24%、22%であった。以上のことから、診断と研究を

分けたいと考えている意見が少なくないようである。個人について多様な勤務形態を容認することは必要である一方、教室全体としては診療と研究の能力を併せ持つことが病理学の存続に不可欠という考え方もあり、この点については学会としても十分考慮していく必要がある。

#### 人材育成委員会からの提言：アンケート調査から一人病理医の環境改善のために

- 学会として一人病理医の教育・研修活動を積極的に支援する。
- 現実的には、支部単位でのコンサルテーションシステムの構築や情報の共有化など支援システムの充実化をはかる。

#### 女性病理医の環境改善のために

- 人材育成委員会直轄の組織として、各支部に女性病理医支援窓口（センター）を設置し、育休・人事などに関する相談業務を行う。
- 病理専門医試験を受験しやすい制度を検討する。例えば、育児期間中の常勤・非常勤の期間を経験年数としてどのように反映させるかなどを検討する。
- ワークシェアリングを推進する。例えば、各支部・地域の現状に応じた方策を考える。
- 育児休暇からの復帰や一旦退職した後の復職時の教育・研修を支援する。例えば、セミナーの開催など。
- 研究機関でのキャリア育成の支援や常勤ポスト確保を推進する。

2009年9月

日本病理学会人材育成委員会

#### 3. 技術講習会 — 分子病理学の基礎技術 — 9 の受講者の募集について

##### — 病理に役立つ細胞マーキング —

下記の要領で参加者を募集いたしますので、会員諸氏にはふるってご応募されますようにご案内いたします。なお、本講習会の受講により日本病理学会病理専門医資格更新のための生涯学習単位5単位が認められます。

##### 記

1. 日時：2009年11月18日（水）  
第55回日本病理学会秋期特別総会前日 13:00-17:20
2. 場所：ホテルグランドヒル市ヶ谷 2F 瑠璃西の間
3. モデレーター：青笹 克之、森井 英一（大阪大学）  
横崎 宏（神戸大学）
4. 受講料：5,000円（ハンドアウト代含む）
5. 応募、問い合わせ、参加決定：
  - (1) 受講希望者は、受講を希望すると旨とともに、氏名、所属、会員・非会員の区別、連絡先（住所、電話

番号, FAX 番号, E-mail address 等) を記載の上,  
以下の応募先までお申し込みください。

応募先: 社団法人日本病理学会事務局

TEL: 03-5684-6886 FAX: 03-5684-6936

E-mail: jsp-admin@umin.ac.jp

内容の問い合わせ先: 森井英一 (大阪大学・病態病理学・病院病理部)

TEL: 06-6879-3711 FAX: 06-6879-3719

E-mail: morii@patho.med.osaka-u.ac.jp

- (2) プログラムの詳細につきましては, 日本病理学会ホームページ (<http://jsp.umin.ac.jp>) をご参照ください。

#### 4. 常任理事会報告 (7月～9月)

◎第3回 (平成20年7月29日 (水))

1. 診療報酬改定に関する厚労省ヒアリングが8月末に行われる。また, 中医協「医療技術評価分科会」委員に本学会の稲山社会保険委員長が選任された。
2. モデル事業延長に関連して, 主要4学会 (内科 外科 法医 病理) が打ち合わせを行った。
3. 病理解剖に国庫補助をとの要望を, 時期をみて厚生労働大臣に提出することを検討した。
4. 人材育成委員会が6月20日に開催された。アンケート結果と提言を会報, ホームページに掲載し, 抜粋を冊子体にして総会・支部会等で配布する予定である。
5. 7月19日に「医学生のためのレジナビ」に参加した。ブースを訪れた医学生は, 昨年と同様に, 約70名であった。今後はブースを訪れた医学生のその後についてアンケート調査をすることも検討している (若手医師確保に関する委員会大橋委員長)。
6. 2012年 病理学会春・2011年秋総会長選出については, 7月号会報に募集記事を掲載する。
7. 利益相反について, 井藤倫理委員長より案が提示され, これを検討した。現実に起こりそうなことを想定して「指針」の策定を依頼することにした。
8. 公益法人化については, ワーキンググループによって申請書の作成中である。今後は会計面での指導が必要なため, 顧問会計士にも勉強会への出席を依頼することとしている。
9. 選挙制度の検討については, 検討グループを8月にも発足させることとした。
10. 100周年企画記念事業については, 「病事情報管理ネットワーク (仮称)」の資料を供覧した。
11. 今年の病理学会カンファレンスの参加予定者は, 全参加者で99名とのことである。  
技術講習会については, 会報7月号にて受講者を募集する。
12. 本年度病理専門医試験は, 7月25日・26日に京都

府立医大で行われ, 80名受験のうち64名が合格した (合格率80%)。同日の口腔病理専門医試験は, 3名受験のうち合格者は2名 (同66.7%) であった。

13. 来年の細胞診講習会は, 3月13日 (土)・14日 (日) に, 神戸大学にて行われる。

#### 5. 会員の訃報

以下の方がご逝去されました。

小川勝士 名誉会員 (平成21年10月15日ご逝去)

# 日本医学会だより

JAMS News

2009年10月 No. 42  
日本医学会

## ◆第137回日本医学会シンポジウム

「抗体療法の新しい展開」をテーマに、平成21年12月3日（木 13:00~17:00）、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、宮坂信之、鈴木光明、畠清彦の各氏。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ (<http://jams.med.or.jp/>) にて、申し込まれる。参加費無料。プログラムは、下記のとおり。終了後、Web上にて映像配信される。

- ・序論：宮坂信之（東京医歯大・膠原病・リウマチ内科）
- ・HPVワクチンによる子宮頸がん予防/今野良（自治医大附属さいたま医療センター・産婦人科）
- ・新規HPVワクチンによる子宮頸がんの治療/川名敬（東大・産科婦人科）
- ・関節リウマチ治療に抗TNF $\alpha$ 抗体がもたらしたもの/竹内勤（慶應大・リウマチ内科）
- ・抗IL-6受容体抗体は抗TNF療法を超えられるか？/山中寿（東京女子医大・膠原病リウマチ痛風センター）
- ・白血病・リンパ腫に対する抗体療法/薄井紀子（慈恵医大第三病院・腫瘍・血液内科）
- ・固形腫瘍の抗体療法/伊藤良則（癌研有明病院・化学療法科）

## ◆医学賞・医学助成費の決定

選考委員会を9月9日に開催し、平成21年度の日本医師会医学賞・医学研究助成費の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任

されており、今年度の推薦数：医学賞18、助成費39を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、助成費は15件を授与される。

選考の結果は下記のとおり。

### 〈日本医師会医学賞〉

- ・核一細胞質間蛋白質輸送機構の解明と高次生命機能研究への展開/米田悦啓（阪大・生化学・分子生物学）
- ・環境リスクによる潜在的な健康障害の解明—特に次世代影響に関する研究/岸玲子（北大・公衆衛生学）
- ・マイクロサージャリーによる血管柄付き遊離組織移植術/波利井清紀（杏林大・形成外科学）

### 〈日本医師会医学研究助成費〉

- ・神経細胞死を抑制するアルツハイマー病の第三世代治療法/松岡正明（東京医大・薬理学）
- ・がんの自然免疫療法—確立に向けての基礎研究—/瀬谷司（北大・免疫学）
- ・心筋転写制御因子HOPの会合分子同定ならびにHOP変異が心筋症を惹起する機序の解明/森田啓行（東大・健康医科学創造講座）
- ・心不全におけるスプライシング機構の役割解明/朝倉正紀（国立循環器病センター・臨床研究開発部）
- ・膵 $\beta$ 細胞オートファジーと膵島アミロイド形成/綿田裕孝（順天堂大・代謝内分泌学）
- ・神経堤細胞の運命決定と発達緑内障の分子メ

- カニズムの解明/稲谷 大(熊本大・眼科学)
- ・メタボリックシンドロームにおける骨代謝と糖代謝の相互影響/森田明美(国立健康・栄養研究所・栄養疫学プログラム)
- ・チェルノブイリ周辺にみられる甲状腺結節は、がん発症のリスクなのか?/高村 昇(長崎大・放射線疫学)
- ・地域住民を対象にした慢性腎臓病(CKD)の実態調査研究/井関邦敏(琉球大・血液浄化療法部)
- ・I型インターフェロン制御を目的としたトロンボモジュリンの抗炎症作用機序の解明/伊藤量基(関西医大・内科学)
- ・膵β細胞量調節機構の解明と新規糖尿病治療法の開発/寺内康夫(横浜市大・分子内分泌・糖尿病内科学)
- ・酸素/エネルギーハンドリングにおける心血管ホルモンの意義とメタボリックシンドローム包括的医療への応用/伊藤 裕(慶大・腎臓内分泌代謝内科学)
- ・トランスレーショナルゲノミクスに基づいた難治性小児固形腫瘍における疾患特異的な新規治療法の開発/滝田順子(東大・無菌治療部)
- ・網膜色素変性の治療適応決定と予後予測に有用な網膜微細形態計測法と黄斑機能解析法の確立/近藤峰生(名大・感覚器障害制御学)
- ・難治性習慣流産における原因遺伝子の探索/杉浦真弓(名市大・産科婦人科学)

### ◆日本医学雑誌編集者会議

“Publish or Perish”をシンポジウムテーマとした「第2回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会・第2回シンポジウム」を北村 聖委員会組織委員長(東大医学教育国際協力研究センター教授)の下、平成21年7月17日に日本医師会小講堂にて開催した。日本医学会分科会107学会中87学会の学会誌編集者が出席し、専門研究者の講演のほか、3月に日本医学雑誌編集者組織委員会により各分科会機関誌の編集

の現状を把握するために実施されたアンケート調査の結果報告、2分科会(日本癌学会、日本高血圧学会)の指定発言等も交え、編集者間で意見交換を行った。

本アンケート調査の集計・分析の結果を、今後のJAMJEの活動に反映させることを計画している。

その他、アジア太平洋医学雑誌編集者会議 Asia Pacific Association of Medical Journal Editors (APAME)へのJAMJEの入会が承諾された。

### ◆診療関連死に関する作業部会

診療関連死に関する作業部会では、厚生労働省の「医療の安全確保に向けた医療事故による死亡の原因究明・再発防止の在り方に関する試案—第三次試案—」について、とくに「医療安全調査委員会への届け出範囲」「医療安全調査委員会から捜査機関への通知範囲」に関するアンケート調査(平成21年5月現在)を行った。その結果に基づき、提言のまとめ作成を予定しており、現在調整中である。

### ◆専門医制に関する作業部会

平成21年6月26日に、東京国際フォーラムにおいて専門医制に関する作業部会と日本専門医制評価・認定機構専門医あり方委員会の合同委員会を開催した。

合同委員会では、日本専門医制評価・認定機構の基本方針、あり方委員会の現況説明に引き続き、専門医研修プログラム・研修施設の評価・認定について意見交換を行った。

### ◆移植関係学会合同委員会

第27回移植関係学会合同委員会が平成21年7月6日に厚生労働省省議室で開催され、膵臓移植実施施設として、香川大学医学部附属病院と藤田保健衛生大学病院の2施設が追加認定された。

2010年1月よりオンラインで提供されます



## Pathology International

*Publishing articles of scientific  
excellence in human and  
experimental pathology*

**Edited by:**  
Masahide Takahashi

**Impact Factor (2008): 1.349\***

\*2008 ISI Journal Citation Reports

会員の皆様へ

2010年1月からPathology Internationalはオンライン上での提供となり、冊子をご購読者のみに送付されます。

オンラインの閲覧は従来どおり、日本病理学会ホームページの会員専用サイト <https://center.umin.ac.jp/cgi-bin/oasis/pathology/wis.cgi> からのアクセスとなり、UMIN (大学医療情報ネットワーク <http://www.umin.ac.jp>) のI.D.が必要となります。UMIN I.D. 既得者にはそのI.D.に本サイト閲覧権を付加します。未登録者には日本病理学会事務局にて新規登録をいたしますが、このI.D.は本学会と関わらずご自身で管理して頂くこととなります。詳細は上記UMINホームページをご参照下さい。

引き続き冊子の購読をご希望される場合は裏面の購読申込書にご記入の上、出版社 Wiley-Blackwellまでご返送下さい。

ご不明な点がございましたら日本病理学会 事務局 (e-mail: [jsp-admin@umin.ac.jp](mailto:jsp-admin@umin.ac.jp)) までお問い合わせ下さい。

